

Bulletin 4

チーム監督&ドライバーブリーフィング資料

金曜日の午前 10:30 に必須のドライバーブリーフィング を1階メディアセンターにあるドライバーブリーフィングルームで行います。新ドライバーは、メディアセンターで金曜日の午前 9:50 に公式写真撮影がありますので、2023 年度の正しいレーシングスーツおよびシューズを着用して来ることが**必須**となります。ドライバー宣材写真撮影スケジュールを参照のこと。

必須のフロントロー・スタートドライバー・ブリーフィング - レースディレクターオフィスにて (アプリを確認のこと)

土曜日 13:30 - レース 1 および 2 (GT3 および GT4) のフロントロー・スタートドライバー

GT3 および GT4 の1位および2位のスタートドライバーはレースディレクターからブリーフィングが行われます。

無線チェック - 毎日最初のセッション前に無線チェックを行います。無線チェックでは、「ok」と当該カーナンバーをチームメッセージアプリで返信することが必須となります。1日の最初のセッション前のみで、各セッション前ではないことにご注意ください (リクエストのあった場合は除く)。

レースコントロール、レースディレクターおよび SRO オフィス:

必要があれば、この週末中にドライバーはレースディレクターに会うよう呼び出されることがあります。SRO オフィスはパドックのシャレー2 にあります。レースディレクターのオフィスはレースコントロールビルの2階にあります。

レースディレクターとの主なコミュニケーション手段はレースコントロール無線のチャンネルとチームメッセージアプリです。セッション中にレースディレクターがチーム監督に話す必要がある場合は、要請されたらレースコントロールにお越しくください。チームからレースコントロールへのアプリ上のコミュニケーションは一般的なシャウトでなければなりません。

ドライビングスタンダード:

すべてのドライバーは、全セッション中コースに出ている時は注意すること。自分が速い車両である場合、遅い車両を避ける方法を見つけるのは自分の責任であることを忘れないでください。遅い車両は自身のラインを維持しなければなりません。不注意な運転には厳正に対処します。ドライビングスタンダードは非の打ちどころのないものでなければなりません。すべての GT3 車両は常時ライトを点灯しておかなければなりません。可能な場合、青旗を使用します。

ピットレーン:

ピットレーンの制限速度は**時速 50 キロ**です。

ストップ・ゴーペナルティの場所はSB手前の8番ピットボックス外の右側で、各チームがペナルティ消化について責任があります。

ガレージから離れる時/ピットレーンの場所:

車両には、公式プラクティス1および2、および予選の開始前に、ピットレーンの自身に割り当てられた場所から離れてファストレーンに並ぶ許可が与えられますが、これは無線メッセージまたは計時画面のメッセージによってレースコントロールからシグナルが出された後に限られます。

何時頃になるかを示すために時間の警告が出されますが、計時画面および/またはチーム無線で確定されるまでは車両は動いてはなりません。

シグナルより前に動いた車両は検証の対象となります。

どのセッションの開始時でも、車両を正しく割り当てられた位置に配置するためにスケートの使用が認められます。

公式プラクティスセッションと最初の予選セッションの開始時、および両レースの車両リリース時に、リリースされるすべての車両はノーズをピット出口に向かって45度に停めてからリリースすること。

上記セッション中にピットに戻る際は、車両をピットレーンに平行して停めなければなりません。GT3のQ1とQ2の間、GT4のQ1とQ2の間は、スケートは使用できません。

車両をガレージに戻すために全セッションの終了時にスケートを使用することが認められますが、各カテゴリーの予選セッション終了時—GT3のQ2終了時とGT4のQ2終了時を除きます。これらの時は車両がパークフェルメ下に置かれ、スケートの使用は認められません。

いかなるセッション中もピットレーンでの追い越しは禁止です。

レースでのピットストップ中は、「ピットストップ作業」が完全に完了し、車両がレースに再参加する準備ができた場合にのみ、車両は離れる/移動することができます。車両はファストレーンに直接進入しなければなりません。自身の場所を離れた後にファストレーンで停止したり、ファストレーンを不適切なペースで走行したりした車両は（不可抗力を除く）、検証の対象となります。不適切なペースとは、時速40キロ未満で、ピットストップ時間を延長するために使用していると見なされません。

トラックリミット:

トラックリミットは、レースコントロールTVとともに審判員を用いて、特にターン4, 6, 8, 14に焦点を当ててコース周辺で監視されます。トラックリミットの裁定には異議を申し立てることはできません。4輪全部がコース端を定義する白線の外側に出た時に車両がコース外に出たと判断されます。

レースでのトラックリミット: 警告 3 回、違反 4 回目は審査委員会に照会されドライブスルーペナルティ (車両に対する) となります。

ラップタイムの削除は該当ラップ終了後に通知されます。

公式プラクティス 1: 再犯者には黒旗が出される可能性があり、両ドライバーがレースコントロールに出頭すること。

公式プラクティス 2: トラックリミット違反のあった周回に出したラップタイムは削除されますが、周回数はカウントされます。再犯者には黒旗が出される可能性があり、両ドライバーがレースコントロールに出頭すること。

予選: トラックリミット違反のあった周回に出したラップタイムは削除されますが、その周回は予選ラップとしてカウントされます。

レース: トラックリミット違反は、無線および/またはモニター画面を通じてチーム監督に通知されます。3 回目の違反の後、車両には黒白旗が提示されます。4 回目の違反では審査委員会に照会され、ドライブスルーペナルティが課される場合があります。さらに違反した場合は、再度黒白旗が提示され、レースの残り期間でさらにドライブスルーペナルティが課されます。

予選

すべてのドライバーは、予選セッションでレースに出走する車両と正しいセッションで 1 計測周回 (アウトラップとインラップを含まない) を完了しなければなりません。セッションについては発行されたスケジュールを参照してください。ドライバー ID は正しくなければならぬので特に注意してください。ドライバーは、公式プラクティス 2 でも計測周回を 1 周する必要があることに注意してください。

グリッド:

すべての車両はグリッドへの試走を複数回行うことが認められておりますが、出口のシグナルが赤の時はいかなる車両もピットレーンを離れることはできません。

グリッド上のグリッド位置に停止するすべての車両は、隣の車両との幅を確保し、車両が通過できる十分なスペースを残さなければなりません。

大会ブルテン- レースのカウントダウンを確認すること。スケジュールが遅れる場合がありますので、最新情報についてはレースコントロール無線とメッセージアプリをご確認ください。

レーススタート:

各車両/クラスのスタートドライバーはスタートドライバーエントリーリストをご確認ください。

フォーメーションラップの終わりには、ローリングスタートのためにすべての車両がしっかりとグループ化されて整列しなければなりません。車両はターン 14 までにウィービングをやめ、ターン 14 と 15 の間で 2 台ずつ整列しなければなりません。ドライバーはボックス上を 2 列で通過します。ペースカーは時速 50 キロの速度で進み、ピットレーン内の右側にはけます。ポールポジションの車両は、レーススタート前に徐々に速度を上げ、最大時速 110 キロまで上げなければなりません。車両は 2 列に

並んだままボックス上を通過しなければなりません。レースは、赤ライトの消灯時に全車スタートとなります。

ボックス上に並んでいない車両は検証対象となり、審査委員会に照会されます。速度は GPS システムによって監視されています。

ピットストップ/作業ライン:

作業ラインは、ガレージの外側の黄色の線によって定義されます。

ピットボックスのマーキングは作業ラインの外側から 100cm 離れていなければなりません (ピットレーンマネージャーとの合意によるもの)。発行済みブルテン 2 のとおり。

ラインを越えたチームメンバーはピットストップ中に活動しているとみなされます。車両がピットレーンに到着する前に外に出られるのはカーコントローラーのみです。車両は、自ピットボックスから 3 ボックス以内のところまで来た時のみ、自分の作業場所に移動するためにファストレーンを離れることができます。チームメンバー/ドライバーは車両が停止してからのみ、ラインを越えることができます。停車する前ではありません。

最大 2 名のタイヤメカニック (緑色の腕章)、メカニック (第 38.1 条に記載されている限定された活動)、およびカーコントローラー (白色の腕章) がピットレーン側にいることを認められます。ラインを超えて立っている追加の人員は作業しているとみなされ、作業人数に含まれます。

タイヤは車両が停止するまでラインの後ろに置かれたままであること。

車両は安全にリリースできる場合にのみ、ファストレーンに直接進まなければなりません。

必須のピットストップ時間とピットウィンドウについては、大会ブルテン 1 を確認してください。

常時、最大 1 つの腕章を着用できます。

作業ピットレーン内のすべてのチーム員は、ピットレーンで作業している間、難燃性のオーバーオールとヘルメットを着用しなければなりません。

フルコースイエロー手順

カウントダウンの後、モニターに「FCY」というメッセージが表示され、チーム無線で「フルコースイエロー」という指示が出されます。

黄旗の振動提示が直ちに行われ、その後カウントダウンが続き、そして「FCY」ボードがすべてのマーシャルポスト、コントロールラインおよびピット出口で提示されます。この時点で、すべての車両は時速 80km でなければなりません。レースディレクターまたは審査委員会が安全上の理由として認めた場合を除き、FCY ボードが出された瞬間から追い越しは禁止されます。これは黄旗が振られる前である可能性があります。

車両は一列縦隊で一定の速度で進まなければなりません。速度は GPS によって監視され、所定の速度を超えた車両は審査委員会に報告され、ペナルティが課される場合があります。

ピットレーンの出入口はオープンのままとなりますが、ピット出入口の最高速度は時速 80km となります。問題が解決すると、コースはグリーンに戻り、モニターとチーム無線で情報が伝えられます。また、問題が解決しない場合にはセーフティカーが導入される場合もあります。

FCY 後のセーフティカー介入

セーフティカーの導入が必要となる可能性のあるインシデントの開始時、セーフティカーが導入される前にフルコースイエロー期間が宣言される場合があります。この場合、セーフティカーはライトを消灯した状態でコースに加わり、先頭車両に到達するまでコース上の車両を追い越し、セーフティカー手順の指示がアナウンスされます。先頭車両を捕まえるとライトを点灯し、黄旗の振動提示とともに SC ボードが表示されます。

セーフティカー:

セーフティカーの手順は ISCのH項に基づいています。セーフティカーの導入が命じられると、すべてのマーシャルポストで黄旗の振動提示とSCボードが提示されます。サーキット上の黄色のライトが点灯します。車内シグナルディスプレイもセーフティカー LED シーケンスを点灯します。

セーフティカーはピット出口からリリースされ、1コーナーでコースに合流してレースリーダーを捕まえることに努めます。

車両はセーフティカーの後ろで、できるだけ早く安全に整列し、車間距離が 5車身以内でなければなりません。追い越しは、セーフティカーオブザーバーからの手信号によって追い越しを指示されない限り、禁止されています。セーフティカーが導入されているとき、車両はピットレーンに進入することができますが、ピットレーンの端にある信号がグリーンに点灯している場合にのみコースに復帰することができます。セーフティカーがターン15を通過し、後続車両の列の最後の車両がピット出口を通過しようとしているときを除き、常に点灯しています。第1セーフティカーライン、第2セーフティカーライン、およびピット出入り口のブレンドラインは尊重されなければなりません。

セーフティカーが呼び戻される時、ターン11と12の間でライトを消灯し、この周回の終わりにピットインすることを知らせます(車内シグナル表示では緑色の LED が点灯する場合があります)。SCがピットに入る時は、コントロールラインを横切るまで列の先頭車両がペースを決定します。最後の車両がコントロールラインを通過するまで、黄旗とSCボードはグリーンフラッグに置き換えられます。車両はコントロールラインを通過するまで追い越しをしてはなりません。

赤旗

公式プラクティス 1&2 および予選中。すべての車両は直ちに時速 80 キロまで減速し、追い越しをせず、自チームに割り当てられた位置に戻らなければなりません。

パルクフェルメ:

公式プラクティス1 および 2 後: レースディレクターは、選ばれた車両をガレージ内でパルクフェルメ条件下に置くよう指示する場合があります。

予選後: 選ばれた車両は車検に送られます（援助のために 2 名のメカニックを派遣）。その他のすべての車両はパルクフェルメ条件下でガレージに戻されます。

レース 1 および 2 後: 表彰台対象の車両は、パルクフェルメ条件下でピットレーン端の表彰台の前に停止するよう指示されます。その他すべての車両は、パルクフェルメ条件でガレージに戻ります。

表彰式に必要な車両: GT3 総合 1 位 2 位 3 位、GT3 プロ - アマ及び GT3 アマ。GT4 レース 総合シルバー - アマ。

表彰台を獲得した他のすべてのペアドライバーは、直ちに表彰台に行かなければなりません。

保険請求が必要な場合は、すべての詳細（カーナンバー、チーム名、車両の型、インシデントの時間および場所、その時に運転していたドライバー）を保険請求用紙に記入してください。